

1. 評価結果概要表

平成 20 年 10 月 17 日

【評価実施概要】

事業所番号	0174600536		
法人名	有限会社 ケアサポートふる郷		
事業所名	ケアサポート・ワンズホーム		
所在地	〒080-0011 帯広市西1条南36丁目1番27号 (電話) 0155-47-5571		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年8月20日	評価確定日	平成20年10月17日

【情報提供票より】 (20年7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	平成15年 3月 20日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18人
職員数	15人	常勤10人, 非常勤5人, 常勤換算 13.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造亜鉛メッキ造り	
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000~56,000円の3段階		
その他の経費(月額)	18,000円		
敷金	有()円 <input type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 <input checked="" type="radio"/> 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200円

(4) 利用者の概要 (7月15日現在)

利用者人数	18名	男性 4名	女性 14名
要介護1	3名	要介護2	5名
要介護3	2名	要介護4	6名
要介護5	2名	要支援2	名
年齢	平均 87.3歳	最低 77歳	最高 99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	協立病院・長屋内科胃腸科医院 ・よしだ歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、開設して5年が経過し、事業所の基盤も堅固なものになっている。事業所内は明るく清潔で広く、開放的な居間、居室、台所、トイレ等も見守りが行き届く配置になっている。社会に貢献したいという管理者の思いが、利用者へ熱意となって伝わっている。利用者本位の意思を大切に、最後までその人らしい自由で誇りのある暮らしを続けることを、管理者、職員が積極的に支援している。管理者と職員間の信頼関係も厚く、職員が一体となって利用者のよりよい暮らしの実現に取り組んでいる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点はない。利用者に対して近隣の方々の理解や、支援の関係も努力を重ね改善してきている。今後事業所側から更なる地域への発信を増やし、よりよい事業所へ期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価を念頭に、全職員が自己評価に取り組み管理者がまとめている。評価の意義を管理者、職員は理解し、日々のケアを振り返りながらサービスの向上に繋げるよう取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>町内会役員、家族、地域包括センター、管理者、職員などが参加し、3ヶ月に1度会議を開催している。事業所の運営状況、利用者の状況、行事の報告などを協議している。表出された意見は運営に反映されている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪は多く、面会時に気軽に意見や要望を表せる雰囲気作りに配慮している。表出された意見、要望についてはミーティング時に話し合い事業所の運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩時には近所の方と気軽に挨拶を交わしている。町内会行事(新年会・5月町内会の花見・焼肉バーベキュー)に参加したり、夏祭には家族も含めて80名が参加するなど、積極的に地域との交流に努めている。事業所行事には、演芸(唄、三味線、腹話術)や、フラワーセラピーなどのボランティアの訪問を受け交流を図っている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、いっしょに、たのしく」を基本にその人らしさを尊重し、パンフレットに「地域とのふれあいを大切に」と掲げ、地域の一員として事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関の見やすい場所に掲示してある。ミーティング時には職員が理念を復唱するなど、意識付けを図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時には近所の方と気軽に挨拶を交わしている。町内会行事（新年会・花見）に参加したり、夏祭りに家族も含めて80名が参加するなど、積極的に地域との交流に努めている。事業所行事には演芸ボランティア（唄、三味線、腹話術）やフラワーセラピーなどの訪問を受け交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を念頭に全職員が自己評価に取り組み、管理者がまとめている、評価の意義を管理者、職員は理解し、日々のケアを振り返りながらサービスの向上に繋げるよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1度開催し、町内会役員、家族、地域包括センター、管理者、職員などが参加している。事業所の運営状況、利用者の状況、行事の報告など協議している。そこで表出された意見は運営に反映されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護認定などで、市の窓口に出向く機会が多く、担当者にそのつど相談を行い、助言を頂き、双方共に理解を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のお便りで状況を報告している。また、家族の来訪時にも声をかけ利用者の暮らしぶりや、健康状態について詳細に伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に気軽に意見や要望等を表せる雰囲気作りに配慮している。表出された意見、要望はミーティング時に話し合い事業所の運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットの事業所であるが、両ユニット合同で食事をしたり、居間で仲良く過ごすなど、日々の暮らしの中で職員の交流も多く、馴染みの関係が出来ている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員が外部研修を受講する機会を積極的に設け、職員育成に努めている。研修成果を報告書にまとめ提出、会議時に発表し職員全体で学ぶ機会を確保している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士の研修会などを通じて意見交換を行っているが、勉強会をするまでには至っていない。	○	同業者同士職員の交流会、勉強会を持ち職員のサービス向上に期待したい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な限り入居前に本人、家族に見学の機会を持って頂き、入居後安心して事業所の雰囲気に馴染めるよう、家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりが出来る事を大切にしながら、出来ない部分を支えている。経験豊かな利用者から職員は学ぶ事も多く、共に支え合う関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、声かけを行いながら、動作や表情から本人の思いを受け止めて、その人らしく暮らし続ける支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の日常生活や見守りの中で、本人の意見、家族からの要望、職員からの情報を聞き取り、介護計画に反映し作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画期間内に見直されている。利用者の心身の状態変化や本人、家族の要望、現状に合わせた介護計画の見直しが行なわれている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の希望や状況に応じて通院、外出等の送迎など必要に応じた柔軟な支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による定期的（月2回）な往診が行なわれている。管理者が看護師であるので、利用者の日々の健康管理は行き届いている。緊急時には適切な医療を受けられる体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の医療連携体制はとれている。入居時に本人、家族と重度化や終末期の対応、取り決めの書類が作成され、方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの性格や状況を把握しており、言葉かけのタイミングを図り、その人の誇りに配慮したケアに努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にしながら、散歩、ドライブなどを楽しんでいる。また、家族から利用者の「白寿の祝」に担当職員が温泉に招待されるなど、本人、家族の希望に添った支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量や食べる意欲を優先させながらゆっくりと食事ができる支援に努めている。食事の後片付けも希望や状況を配慮しながら、自分の役割として自然に行なわれている。ミキサー食など個別食の提供も行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には曜日は決まっているが、利用者一人ひとりに入浴時間の希望を聞きながら入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの身体状況を把握しながら、畑での野菜の収穫を楽しむなど、利用者の個性を活かした支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	付き添いが不要な利用者には、日々自由に散歩を楽しんで頂いている。見守りの必要な利用者には職員が付き添い、散歩や、ドライブなど外出の機会を作り、利用者の気分転換を図っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠していない。居室のドアも開放している利用者も多く自由に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は消防署と連携し年2回実施しているが、地域住民の協力体制の確保までには至っていない。喫煙される利用者の為に、各フロアーに喫煙所を設け職員が見守り、火消し処理を行っている。	○	身体的に重度化の進んでいる利用者も多い現状から、特に職員の手薄となる夜間帯の災害対策が急務であり、地域が一体となった具体的な災害対策が必要である。地域住民との協力体制を築き、実践的な訓練の実現に期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に1度、定期的に利用者の体重を測定し、健康状態を把握している。栄養士がバランスを考えた献立表を作成している。利用者一人ひとりの状況に合わせ、ミキサー食などの個別食事の提供も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、廊下、1階に2ヶ所の台所があるなど広く、ゆったりとした作りになっている。広いベランダからは、季節を感じさせる見事な石庭や花壇を楽しむ事ができ、落ち着いて居心地よく過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の使い慣れた家具、調度品、家族の写真が飾られており、一人ひとりの個性的な居室づくりが工夫されており、安心して過ごされている。		

※  は、重点項目。